

一、はじめに

私は二年前、高崎市市史編さん委員会編集の調査資料や郷土資料を読み込み、現地確認と地域住民への聞き取り調査をして、浜尻天王山古墳の現状、古墳と地域の関わりの変化、今そして将来の古墳維持に関して地域が抱えている問題点を明らかにした。自分をはじめ、多くの小学生が、神社のある築山を古墳だと認識していないことに気づいていたし、聞き取り調査をする中で、地域住民からは、「地域の宝なのにも関わらず存在が伝承されていない」との指摘もあって、当時の私は浜尻天王山古墳を後世に伝えるために役に立ちたい、と研究のまとめに記した。それにも関わらず、この二年間、実際に何かの行動を起こしたわけではなかった。

そこで、今回、自分が小学生だったときに、低学年の学びに「町探検」というものがあったことに目をつけ、①低学年の児童が地域の史跡や遺物（主に古墳）を学習するための手引き、②現地調査のためのワークシート③聞き取り調査のためのワークシート、の二つを作成してみることにした。

二、方法

浜尻町内には、東国文化の遺産である古墳が目視で墳丘とわかるものが2基（No.1浜尻天王山古墳、No.2真福寺観音堂のある墳丘）、墳丘とは確認しづらいが高崎市の調査では「現存」と評価されているものが1基（No.3新井家共同墓地）、古墳があったことを想像させる場（No.4駐車場におかれた祠）が1カ所ある。これらを学習のターゲット1とし、古墳周辺にある昔の石碑をターゲット2とする。ターゲット2は年代的に東国文化の遺産ではないが、ターゲット1と地域住民との関係を推測するものとして、学習の対象にする。

まず、グループを作り、グループごとにターゲットの中から調査対象を決め、現地調査をすると仮定する。そこで使うのが現地調査のためのワークシートである。このワークシートの順に沿って書き込みをすると、基本的な調査が完了できるように項目を工夫する。

そして疑問に思ったこと、分からなかったことについては、聞き取り調査で補えるようにする。聞き取りを依頼するのは、おじいさん、おばあさん、近所の人、地主、区長さんや神社・お寺の方、公民館の方などで、地元のネットワークをたよると仮定する。聞き取り調査のためのワークシートには、書き込む必須の事項、聞いたこととそれ以外を区別して記入できるよう項目を工夫する。

事前学習は必ずするものだ。そのために、学習の手引きを準備する。

<1>「学習の手引き」作成の方法

全体を通して、低学年の児童は、歴史を勉強していないので、必要な説明を加えて、興味が持てるようにする。ターゲットごとの注意点は以下の通りである。

○ターゲット1に関しては、

- ①昔、群馬の地域は東日本をリードする大国であったことについて
- ②群馬には古墳が多いこと、浜尻地区に造られた古墳の数と現状について
- ③古墳について学べる施設について 説明する。

○ターゲット2に関しては、

- ①石碑から地域の昔の様子が分かることについて
- ②石碑は移動できることについて 説明する。

<2>現地調査のための「ワークシート」の作成方法

ワークシートの順に沿って書き込みをすると、基本的な調査が完了できるように、

○ターゲット1のNo.1とNo.2に関しては、

- ①過去に訪れたことがあるか、あるとしたら何のために

②石で固められた古墳（復元された他の古墳の写真と比較[学習の手引き参照]）とどうちがうか

③墳頂には何があるか（建物、石碑、その他）

④手入れの具合（ごみ、木の様子、草花の様子、建物の様子、その他）

⑤スケッチ

の順に、

○ターゲット1のNo.3とNo.4に関しては、

①その場が何に使われているか

②古墳だったことに気づけるか

③手入れの具合

④スケッチ

の順に、書き込めるようにする。

○ターゲット2に関しては、

①文字の書き取り、何種類あるのか

②どんな配置になっているか

③手入れの具合（ごみ、木の様子、草花の様子、その他）

④スケッチ

の順に書き込めるようにする。

また、現地調査にあたってのアドバイスを挙げる。

①タブレットで写真が撮ることができるならば、分からない文字を教室で調べたり、その時の状態を保存することができる。

②基本は、その場で見てワークシートに記入。タブレットは補助。

<3>聞き取り調査のための「ワークシート」の作成方法

現地調査で疑問に思ったこと、分からなかったことについては、聞き取り調査で補えるようにする。

まず、質問を決め、書いておく。

書き取りの必須事項は、

①聞き取りに協力して下さった方の名前、立場

②聞き取り内容の小見出し

また、聞き取った内容と自分の想像や意見は別の項目に記入できるよう、

③聞いたこと

④自分が想像したこと、考えたこと、思ったこと

の項目をつくる。

また、書き取りの際のアドバイスを挙げる。

①聞き取れなかったこと、聞いても分からなかったことは、その場でもう一度聞く。

②答えは短く、箇条書きにする。

三、学習の手引きとワークシート

<1>「学習の手引き」

以下参照

<2>現地調査のためのワークシート

以下参照

<3>聞き取り調査のためのワークシート

以下参照

四、期待される効果～結びに変えて～

自分の地域に残る史跡、それが当然にそこにあるものとして特段の注意なく日々を過ごす、これはありふれた日常だと思う。ただ、史跡が何であるか、知っているというのと知らないのとでは全く違う。知る人がいなければ、だれにも語り継がれることはないからである。

もし、学校の学習で、わが町の昔について歩いて聞いて学べる機会が用意されていたら、そしてそこに地域の人に関わることができるならば、世代を超えたつながりも期待できる。また多くの人からの聞き取り調査ができるなら、多くの情報が集まるにちがいない。さらにそれをみんなで共有することで、この学習成果が、将来に引き継ぐ大切な資料になるのではないだろうか。

私が小学生の頃の町探検では、今の浜尻地区での暮らしを支えるお店（コンビニエンスストアや靴屋、自動車屋など）や公民館、大学、郵便局などの様子、役割、そこではたらく人達の仕事や苦勞について学習した。それだけではない。昔の道具を集めた高崎市歴史民俗資料館を見学し、学校では洗濯板を使った洗濯を体験したこともあった。いずれも本当に良く覚えている。なぜだろうか。自分が歩いて、質問して、体験し、まとめたからではないだろうか。みんなで楽しく学習できたからではないだろうか。

地域の歴史を学ぶ機会や地域の大人の方々から昔の話を聞く機会はなかったが、なければつくればいいと思う。もちろん、準備は大変である。聞き取り調査には、調査を引き受けて下さる方を探さなければならないし、敷地に立ち入る許可をいただく必要もある。

ともかく、次のステップは、このワークシートをパソコンの中から取り出すことである。

学習の手引き

浜尻町内には、東国文化の遺産である古墳が目視で墳丘とわかるものが2基（No.1浜尻天王山古墳、No.2真福寺観音堂のある墳丘）、墳丘とは確認しづらいが高崎市の調査では「現存」と評価されているものが1基（No.3新井家共同墓地）、古墳があったことを想像させる場（No.4駐車場におかれた祠）が1カ所あるよ。これらを学習のターゲット1とし、古墳周辺にある昔の石碑をターゲット2として学習をしていこう。ターゲット2は年代的に東国文化の遺産ではないけれど、ターゲット1と地域住民との関係を推測するものとして、学習の対象にしていこう。

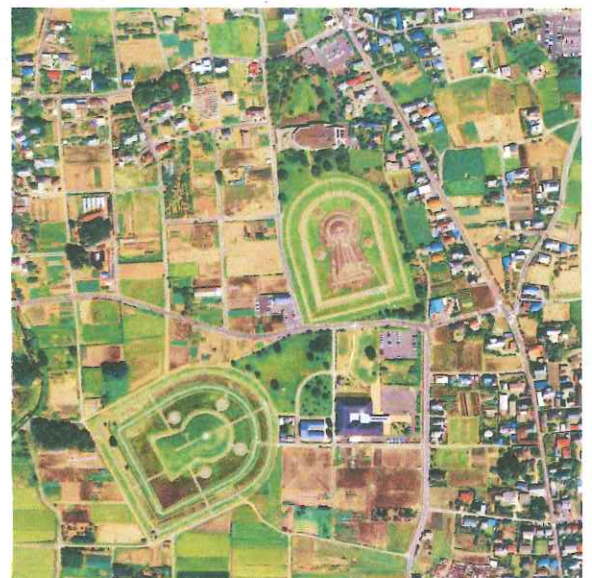
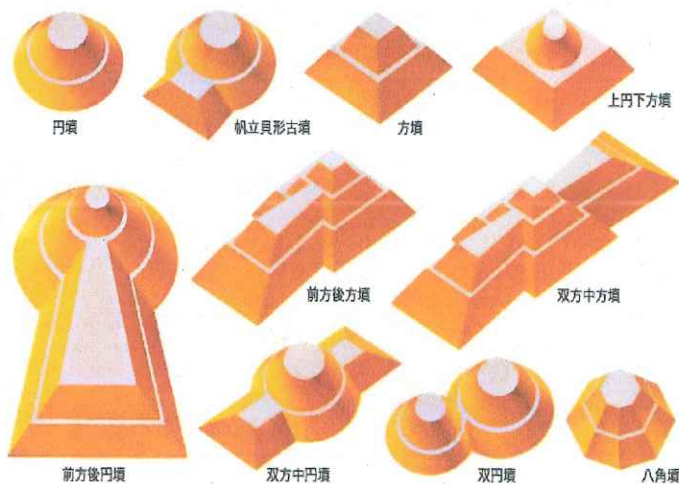
～ターゲット1に関して～

①昔、群馬の地域は東日本で一番の大国だった？

ここで、昔というのは、古墳時代のことだよ。古墳時代とは、全国的にたくさん古墳が造られた時代のこと、今～1700年から1300年も前のこと。稲作が大陸から伝わって、狩りや採集の時代から抜け出した弥生時代のあと、約400年ほど（3世紀後半から7世紀代のこと）をいうよ。いまの奈良県で聖徳太子も活躍した100年と少し（7世紀頃）は、特に「飛鳥時代」と呼ぶけどね。

古墳とは、地域を治めた有力者のお墓のこと、いろいろな形や大きさがあるよ。「墓」という単位で数えるんだ。古墳時代を中心に、いまの関東地方で栄えた文化のことを東国文化というよ。

[古墳の形のイラスト、保渡田八幡塚古墳の写真]



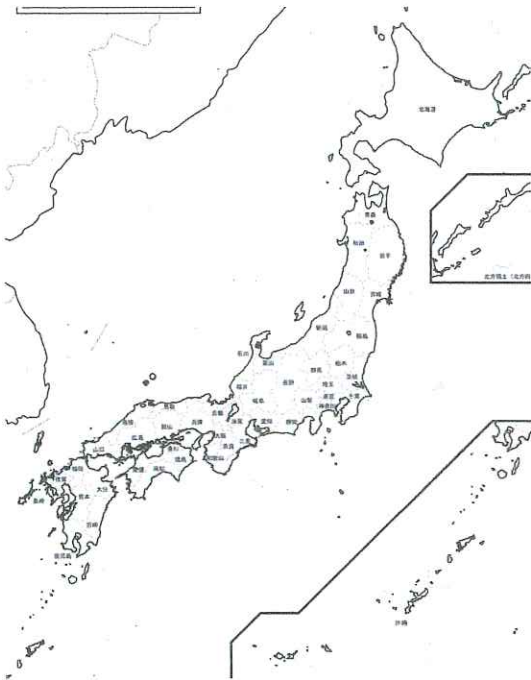
古墳の形のイラスト <https://aomatsu123.blog.fc2.com/blog-entry-184.html?sp>

保渡田八幡塚古墳の写真

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BF%9D%E6%B8%A1%E7%94%B0%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4>

当時の日本の中心は、ヤマト王権が栄えた大阪、奈良、京都あたり、今は近畿地方と呼ばれるあたりだったんだよ。東京が中心になるのは、江戸時代。徳川家康が江戸幕府を開いてからなんだ。関東地方とは、東京、ディズニーランドのある千葉、横浜シーパラダイスのある神奈川、大洗水族館がある茨城、日光東照宮がある栃木、東京へ行くときに通る埼玉、そしてここ群馬のことだよ。

[日本地図] <https://www.freemap.jp/itemFreeDIPage.php?b=japan&s=japan2>



古墳時代の群馬地域は、土地が豊かで水も多く農業が盛んで、馬も生産していたよ。ヤマト王権と深い結びつきをもっていて、「上毛野国（かみつけぬのくに）」と呼ばれ、東日本をリードする大国だったんだ。群馬県に、規模の大きな古墳が数多くあるのは、その証なんだ。

[時代推移の説明]

①旧石器時代→②縄文時代→③弥生時代→④古墳時代→⑤飛鳥時代→⑥奈良時代→⑦平安時代→⑧鎌倉時代→⑨室町時代→⑩安土桃山時代→⑪江戸時代→⑫明治時代→⑬大正時代→⑭昭和時代→⑮平成時代→⑯令和時代

①ナウマン象を追って大陸から人々が居住→②狩りや採集の生活→③稲作をし定住、国ができる→④大王の出現、有力者の墓である古墳が作られる→⑤奈良県飛鳥地方で聖徳太子が活躍、天皇による政治→⑥奈良に平城京、東大寺と大仏が作られる→⑦

京都に平安京が作られ、貴族の華やかな文化が開く→⑧源頼朝が鎌倉幕府を開き武士による政治が始まる→⑨京都に室町幕府が開かれる、金閣寺、銀閣寺が作られる→⑩織田信長の登場、豊臣秀吉が天下を統一→⑪徳川家康が江戸幕府を開く、鎖国と開国→⑫大日本帝国憲法の制定と議会の開設、戦争→⑬戦争、関東大震災→⑭戦争と敗戦、日本国憲法の制定、東京オリンピック→⑮東日本大震災→⑯東京オリンピック

②群馬には古墳が多いの？ 浜尻地区に古墳はどのくらい造られて、いまどうなっているの？

平成24年からおこなわれた古墳調査では、群馬県ではかつて13,249基の古墳があったことがわかったよ。大型古墳数を県別に比べたら、なんと群馬県は京都府とならんで全国4位。大きさ別に順位をつけたトップ100の古墳のうち、5基が群馬県にあるんだ。一位は、奈良県の33基。二位は、大阪府の26基。三位は岡山県の9基だよ。

浜尻地区には、12基の古墳があったとされているんだ。そのうち、いまも残っていると評価できるのが3基。つまり、ほとんどが削られてなくなってしまったんだ。そのあとには家が建てられていたり、駐車場にされていたりするよ。少なくとも1カ所、形はないけれども、祠が置かれている場所があるよ。地図で、残っている3基と、祠のある1カ所の合わせて4カ所を確認してみよう。

[下記地図] <https://www.google.com/maps/@36.3505161,139.0182641,17.27z?hl=ja>



- No.1 浜尻天王山古墳
- No.2 真福寺観音堂のある墳丘
- No.3 新井家共同墓地
- No.4 駐車場におかれた祠

③古墳について学べる施設の紹介

群馬県の古墳について、また古墳時代の人々の暮らしについて詳しく知りたいと思ったら、つぎの4つの施設に行ってみると良いよ。

かみつけの里博物館（高崎市井出町井出町1514）には、古墳時代の人物・動物埴輪や当時の豪族の館、水田や畠などの耕地、集落などを再現した模型が展示されているよ。そし

て、館外には国指定史跡の保渡田古墳群のうち、八幡塚古墳・二子山古墳が復元整備されているんだ。

群馬県立歴史博物館（高崎市綿貫町992-1）には、国宝指定された「群馬県綿貫観音山古墳出土品」の埴輪や副葬品が展示されていて、原始から近現代まで通史で学べる展示室もあるよ。

群馬県埋没文化財調査センター発掘情報館（渋川市北橋町下箱田784-2）は、発掘調査の成果を公開する施設で、土器づくりやまが玉作り、火おこしなどの体験学習メニューも用意されているよ。

高崎市立中央図書館（高崎市高松町5-28）

5階の地域資料・参考図書エリアをのぞいてみよう。レファレンスで調べ方を相談してみるのもいいね。持ち出しできない資料も、手続きをすればコピーをとることができるよ。

～ターゲット2に関して～

①石碑から地域の昔の様子が分かることについて

今残っている古墳の墳頂には、いろんなものがあるんだ。建物や石碑。石碑についていうと、実は、古墳の周辺にもあるよ。通学路沿いにあるから知っている人がいるはずだよ。種類もたくさんで、石碑に刻まれている文字から、それが何のために造られたのか、いつ造られたのかが分かるよ。それが分かると、その当時の地域の人々の暮らしが想像できるんだ。古墳時代のことではなくとも、地域のことを知る大事な遺物であることを知ろう。

②石碑は移動できることについて

古墳を移動させるというのは、現実的ではないよね。つくられた古墳がのちにどうされるかについては、大きければそのまま残すという方法もあるし、小さければ削ってその土地を有効に使えるようにする方法もあるはずだ。でも、運べる大きさの石碑であれば、都合が悪くなると移動することもできるよね。

移動したかどうかは、何から分かるのかな。刻まれている文字や石碑の配置に注目してみよう。移動して残そうとしたならば、それらが大事だったからなのかな。移動先に選ばれた場所にはどんな意味があるのかな。

★「学習の手引き」を作成のために参考にした本

①『東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～』松島榮治監修 群馬県 2019年

②『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』

『別冊付録：高崎市内古墳分布図 高崎市内古墳一覧 調査古墳一覧』

高崎市市史編さん委員会編集 高崎市 1999年（平成11年）

★紹介した施設のホームページ

①かみつけの里博物館（高崎市ホームページ）

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010701664/>

②群馬県立歴史博物館 <https://grekisi.pref.gunma.jp>

③群馬県埋没文化財調査センター発掘情報館（群馬県埋蔵文化財調査事業団ホームページ）

<http://www.gunmaibun.org>

④高崎市立中央図書館（高崎市立図書館ホームページ）

<https://lib.city.takasaki.gunma.jp/index.html>

ワークシート No.1 ～現地調査のためのワークシート～

- ターゲット1 No.1浜尻天王山古墳
No.2真福寺観音堂のある墳丘
No.3新井家共同墓地
No.4駐車場におかれた祠
- ターゲット2 古墳周辺にある昔の石碑

【1】ターゲット1 (No.1とNo.2) に関して

①以前、訪れたことはありますか。あるとしたら何のために訪れたのか、理由を書こう。

②石で固められた古墳（復元された他の古墳の写真と比較[学習の手引き参照]）とどう違いますか。

③墳頂には何がありましたか。（建物、石碑、その他）

④手入れはされていきましたか。（ごみ、木の様子、草花の様子、建物の様子、その他）

⑤スケッチをしてみよう。
白紙を別に用意する。（略）

ターゲット1 (No.3とNo.4) に関しては、

①その場が何に使われていますか。

②古墳だったことに気づけますか。

③手入れはされていますか。

④スケッチをしてみよう
白紙を別に用意する。(略)

ターゲット2 に関しては、

①何種類の石碑がありますか。

②どんな配置になっていましたか。

③手入れはされていましたか。(ごみ、木の様子、草花の様子、その他)

④スケッチをしてみよう
白紙を別に用意する。(略)

<アドバイス>

①タブレットで写真が撮っておけば、分らない文字を教室で調べたり、その時の状態を保存することができるよ。

②基本は、その場で見てワークシートに記入するよ。タブレットは補助だと考えよう。

ワークシート No.2 ~聞き取り調査のためのワークシート~

①質問を書こう。

②聞き取りに協力して下さった方の名前を書こう。

③聞き取り内容の小見出しを書こう。(小見出しをつけて整理しよう)

④聞いたことを書こう。

⑤自分が想像したこと、考えたこと、思ったことがあれば書いてみよう。

アドバイス

- ①聞き取れなかったこと、聞いても分からなかったことは、その場でもう一度聞こうね。
- ②答えは短く、箇条書きにすると、はやくたくさん書けるよ。